

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	<h1>会 報 第 201 号</h1>	2018年4月25日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	----------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

—3月29日（木）二俣瀬ふれあいセンターで会計監査と役員事務局会議を実施しました。
出席者は原田会長、今井相談役、林監査役、渡辺監査役、原田（マ）、原谷、前田の7名です。
総会資料を確認し、会計監査も無事終了しました。

—4月1日（日）二俣瀬ふれあいセンターにて、平成30年度の総会を行いました。
出席者：原田会長、田村副会長、関根事務局長、岡村、金子、河本、菅、北村、工藤、小林、中本、西村、林、原田（満）、原田（保）、原谷、前田、松本、松原、森、吉富、若林、渡邊、岡の24名でした。

- (1) 29年度活動報告で、“つくる会”の活動報告と“観察隊の活動報告”がありました。
- (2) 29年度会計報告があり承認されました。
- (3) 林および渡邊監査役より、監査報告がされました。
- (4) 組織の変更と規約改定、若林会員が事務局に加わります。規約の変更はありません。
- (5) 30年度活動計画（稲作体験、会報、エコアップ、維持活動）について協議しました。
- (6) 30年度傷害保険について協議しました。
- (7) その他として、会計の担当、観察隊保護者OBをつくる会会員、スズメバチ対策、宇部市の関係者は、森朋子・河内厚司・清水一郎会員が退会され、山本剛会員が入会、シイタケの菌打ちは来年に行う事などを話し合いました。

—4月21日（土）二俣瀬ふれあいセンターにて平成30年度の親子自然観察隊の結隊式を行いました。原田会長・管隊長・関根事務局長の挨拶の後、年間計画や注意事項の説明をしました。その後、ビオトープへ移動して、野草の採取と筒堀りをして、野草が食べられるかを北村会員に判断してもらい、テンプラにして食べました。天気も良く、子供たちは元気に遊びまわっていました。参加者は、親13名、子供20名、見学者1名、会員23名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません。

◎行 事

- 5月6日（日）（草刈り・溝上げ）エコアップ・修復作業
- 5月19日（土）親子自然観察隊（野鳥観察）
- 5月27日（日）維持活動（田植え準備、溝上げ・草刈り）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「親子自然観察隊を卒業し、会員となりました」

★ことの外 春の芽吹きが早かった今春 青々とした新緑の中のビオトープの新鮮な空気と のどかな風景…去年の春以来の訪問でした。採りたての野草の天ぷらは どれも美味でした☺ 今年はビオトープの四季の移り変わりを 五感で味わっていただけたらと思います。よろしくお願ひします。
(阿部佳子 記)

★ 今まで親子観察隊として楽しく参加させて頂いていましたが、今回、お手伝いの方に回ってみるととても忙しく、つくる会の方々が、本当によく事前の段取り、準備等をして下さってただなと感じ、有難く思いました。毎年見慣れた一回目活動ですが、子供達が楽しそうに摘んで袋に入れたり、天ぷらにして持って来たりする姿はとても可愛らしく、また自分の子供と重なって思い出されとても懐かしかったです。日常では中々出来ない体験が出来る観察隊はとても素晴らしいと思います。私にとっても昇大にとってもビオトープはホームグラウンドのような場所なので、これからも何かしら関わって行けたらと思っています。今年一年よろしくお願ひ致します。
(戸成典枝 記)

5. 親子自然観察隊 「結隊式・食べられる野草」 (管 哲郎 記)

1) 結隊式 二俣瀬ふれあいセンターにて、受付を済ませたあと、2018年度の結隊式を行いました。今年の参加登録家族は21家族29名となりました。7家族の欠席がありましたが、34名の親子の参加で結隊式を終了し、東屋に移動しました。これだけの人数ですと、ビオトープの駐車場も狭く感じました、会員の方にお願ひし駐車スペースの確保のための整理を行ったほどです。

2) 食べられる野草の採集と試食会 お天気も良く気温も上昇し、最高の採集日和となりました。子供たちも大喜びで野草の採集を楽しみました。今年も春の七草をはじめ、身近な野草のレクチャーを北村会員が引き受けてくれ、初めてのご家族にも十分理解していただけたようです。なお、心配されたタケノコ堀は「案ずるより産みがやすし」で竹林に入ったのちアッという間にたくさんのタケノコが掘り出され、殆ど全員のお土産となりました。今回は上級生に絞ってタケノコ堀を体験させましたが、やはりこれで正解だったようです。お世話いただいた会員の皆さん、お疲れさまでした。野草の試食は大人分を3台の鍋で天ぷらに揚げましたが、朝から付きっきりで昼前まで調理をしていただき大変であったようです。しかし、全員が十分に試食することができました、有難うございました。驚いたことに「タラの芽」が入っていたことです、近頃はなかなか採集ができないので、今年は無理かなと思っていましたが、しっかりと入っており感激でした。準備して下さった会員には特に御礼を申し上げます、田舎では当たり前かもしれませんが、都市部に棲む者にとってはやはり貴重な山菜です、ほかの人たちも感激していました。

【採集された山野草】

ナズナ、ハコベ、セリ、ハハコグサ、ヨモギ、セイヨウタンポポ、フキ、カラスノエンドウ、ノビル、ツワブキ、スイバ、オランダミミナグサ、ミツバ、ワラビ、レンゲ。

(食べられない野草) ホトケノザ、キツネノボタン、ミツバツチグリ。

事故もなく無事に今年最初の行事を終了しました、スタッフの皆さんお疲れさまでした。今年は参加人数が多く、いろんなお世話が大変になると思われますが、幸いにもOBの方々のお手伝いもいただき、本日もスムーズに行事を終えることができました、今後ともよろしくご協力をお願いいたします。



野草の説明を行いました



みんなで野草を採集しました

親子自然観察隊の感想

★有吉遼

ノビルやセリなどの普段はめったに食べないような山菜が食べられて楽しかったです。

★有吉(母)

春をいっぱい感じることができました。とても楽しかったです。

★辻岡(母)

昨年度からお世話になり、2年目の春になりました。私が忘れていたようなことも子どもたちはよく覚えていて、昨年たくさん野草が取れた場所を探していました。つくしがなかったことにがっかりしていましたが、先生方に時折質問したりと、昨年よりものびのびと探索しているように見えました。お昼には晴天の下、おいしい野草の天ぷらもたくさん頂き、自然の恵みを堪能することができました。ありがとうございました。

6. ピオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(28) ツマキチョウ *Anthocharis scolymus*

鱗翅目 シロチョウ科

なじみのないチョウですね、筆者も最初は全く知りませんでした。モンシロチョウやキチョウの仲間ですが、春のチョウで、市街地近くの平地ではあまり見ることはありません。

一応アブラナ科の植物(タネツケバナ、イヌガラシ、ハタザオ、コマツナなど)が食草ですが、丘陵地や山地に生える「ムラサキケマン」や「タンポポ類」によく訪れますので、平地ではあまり見られないようです。成虫の発生期が4月前後の1か月と短いので、余計にお目にかかれないようです。しかし、山口県では農村地帯が多く、市街地から近くに山林が広がっていますので、山奥に入ることなくツマキチョウは見られると思われれます。4月が最盛期ですので、一度林縁部に出られ、探してみたいかがでしよう、感激すると思います。



ツマキチョウ♂



ツマキチョウ♀ (カキドオシの花)



花畑のサクラソウで吸蜜 (山口市徳地)



ムラサキケマンで吸蜜 (萩市明木)

7. 会よりの連絡事項

- 1) 今までの会計は、通帳で入金・出金がわかる様に管理していましたが、手間取るため、一部を現金扱いにすることに総会で決まりました。松本会員が会計担当に加われまして、この現金担当になりました。主に茶菓子などの食材を扱われます。

8. 編集後記

会報も節目の200号を過ぎ、次は300号と言われている。もし順調にいけば、2026年7月に発行されることになる。私は後記高齢者となり、とても編集に加わることは難しいと思います。では次は誰が責任者となって発行してくれるのだろう。それよりも、会員も高齢者となり、つくる会は継続していけるのだろうか。若い人に会員になって欲しいと思っても、これといった良いアイデアが出てこない。定年も65歳に延びて、それからボランティア活動というと、自然保全は体力があると誤解されているのか、なかなか手を挙げてもらえない。声を掛け合って、一度作業を見学に来てもらうように言ってほしい。一度見てもらえれば、興味もわいてくるかもしれません。

(原谷 一誠 記)